

科目名	子どもの保健 I					開講 キャンパス	神園
担当者	葛見保子						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選択
授業の概要 及びねらい	<p>本講義では、子どもの発育・発達を理解させ、子どもの心身の健康を守り、増進させることを目的とする。近年、わが国の子どもをめぐる動向や問題、また、わが国の急速に進む少子高齢化問題、進められている健康づくりや国民運動などを理解させ、統計から見た子どもと家族の健康や世界における趨勢を解説する。</p> <p>また、子どもが生まれ、育っていく過程には、多くの因子が関係している。子どもの発育と発達の意義と過程を縦断的に理解させ、子どもの健康支援のあり方を学ばせる。</p>						
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの健康と保健を理解し、子どもが発育・発達と成長を続けていく中で、健康を損ねる原因を考え、それらに対する対策を述べることができる。 2) 子どもの保健をめぐる動向を理解し、それらに対する対策を説明できる。 3) 統計から見た子どもと家族の健康を理解する。 4) 国や地域レベルで小児の保健水準を評価することができる。 5) 統計資料の指標から、時代による変化と現状を把握し、諸外国との比較を示すことができる。 6) 子どもの発育・発達の意義とその過程を理解することができる。 7) 子どもの臓器と生理機能の発達を理解することができる。 8) 時期別に見た子どもの特徴と養育していく上での要点を説明できる。 						
学習方法	講義、ビデオ視聴、小テスト						
テキスト及 び参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの保健と支援 平山宗宏編 日本小児医事出版社 2) 参考書 子どもの保健 I 佐藤益子編 ななみ書房 						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎			60		
小テスト等	○				10		
宿題・授業外レポート	○	◎	○		15		
授業態度			○		5		
受講者の発表							
授業への参加度			◎		10		
その他							
合計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	オリエンテーション・人体 (名称・骨格の説明-次回試験実施)						
第 2 週	子どもの健康と保健・子どもの保健をめぐる動向 (少子高齢化社会)						
第 3 週	子どもの保健をめぐる動向 (ヘルスプロモーション)						
第 4 週	統計から見た子どもと家族の健康 (主な保健統計)						
第 5 週	統計から見た子どもと家族の健康 (人口)						
第 6 週	統計から見た子どもと家族の健康 (母子保健水準の評価指数とわが国の現状)						
第 7 週	子どもの発育・発達 (発育・発達の評価-カーブ指数を求める)						
第 8 週	子どもの臓器と生理機能の発達 (子どもの発育・発達の特徴)						
第 9 週	子どもの臓器と生理機能の発達 (脳・神経)						
第 10 週	子どもの臓器と生理機能の発達 (骨・歯・消化器)						
第 11 週	子どもの臓器と生理機能の発達 (呼吸器・循環器)						
第 12 週	子どもの臓器と生理機能の発達 (血液・免疫)						
第 13 週	子どもの臓器と生理機能の発達 (生殖器・睡眠・体温・排泄)						
第 14 週	時期別に見た子どもの特徴と養育の要点 (出生前-胎児の成長)						
第 15 週	時期別に見た子どもの特徴と養育の要点 (胎児性水俣病-ビデオ視聴)						
第 16 週	試験						
備考	講義中にプリントで説明することもあります。ノートに整理しておいてください。						